

お知らせ 3月号「筆墨硯紙のツボ」が YouTube動画に!



『月刊絵手紙』3月号の特集「文房四宝ってなんだろう」に掲載の「筆墨硯紙のツボ」。心が澄むような墨色を追い求める文房四宝研究家の濱田薫さんが、『月刊絵手紙』の読者のために、より理解が深まる動画を作成してくれました。全5回の撮り下ろしです。ぜひご覧ください。

1回目は「プロローグ編+硯ツボ編」(公開中)



プロローグ編



硯ツボ編

*以降7月まで毎月1日頃にアップ予定

筆墨硯紙が
まるごとわかる!
2026年3月号(1000円)も
ぜひご覧ください
*詳細67頁

友の会全国大会in大阪について 大切なお知らせ



- 1 メイン会場・サブ会場(リーガロイヤルホテル大阪/日本絵手紙協会大阪事務所)には、大会参加者以外ご入場いただけません。**寄贈品展・スタンプコーナーなどのイベントには名札を着用した大会参加者のみご参加いただけます。**
- 2 サブ会場(大阪事務所)のイベント開催時間・営業時間にご注意ください。
5月26日(火)のイベント開催時間は13~17時(教材販売所に限り10時から営業)、
27日(水)は10~14時(営業時間も同じ)。
*教材販売所に限り営業時間中どなたでもご利用いただけます。

2025年度友の会会員のかたであれば今からでもお申込みいただくことが可能ですが、参加者にお配りする大会冊子は作成済のためお名前等は掲載できません。予めご了承ください。
ご希望のかたは2026年2月号60~63頁で詳細をご確認の上、日本絵手紙協会へご連絡ください。(電話03-5829-6730/平日10~17時)



次号予告 坂村貞民

80	79	78	77	76	74	72	70	68	66	62	65	64	61	59	58
ご注文方法	『月刊絵手紙』定期購読のご案内	「絵手紙友の会」からのお知らせ/編集後記	日本絵手紙協会へのアクセス	ボランティア部からのお知らせ	日本絵手紙協会・推薦教材	栄村国際絵手紙タイムカプセル館だより	小池邦夫絵手紙美術館ニュース	投稿の募集要項	あなたの街の絵手紙情報(展・体験)	〈受講生募集中〉講座のご案内	〈日本絵手紙協会からのお知らせ〉	SDGsでできることから始めよう!	絵手紙NEWS	展覧会のご案内	ボランティア部だより
											◎前野郁子の実るように咲くように「書いて感じる心を育てよう」				◎通ったのしみ、学ぶワクワク! 「絵手紙教室 講評拝見」

50	48	30	29	28	26	24	06	04	01	巻頭	
essay アーサー・ビナード	誌上レッスン 絵手紙教室 ◎小池邦夫の絵手紙教室 「備と画像石」 ◎兼岩幸恵の小せくても一歩ずつで、絵手紙	自由絵手紙/なんでも1000字	読者投稿ひろば	木もれ日「絵手紙と私」 田中許	山田喜代春の詩画世界	手紙のヒント 中川越	柳宗悦の眼に学ぶ 白土慎太郎	特集 濱田庄司の言葉と手仕事 —友の恩と物の恩—	登坂和雄の一語一絵(根)	古拙微笑	ことばの旅

もくじ

月刊絵手紙2026年5月号



今月号より裏表紙の絵手紙は「小池邦夫のことばカード」です
編集部で「今月の月刊誌に合うのは?」という気持ちでひいた一枚です。毎月どんなカードが出るか、どうぞおたのしみに。



日本絵手紙協会の
公式ホームページ



公式Instagram
etegami_society



公式X(旧Twitter)
@Etegami_Society



特集

濱田庄司の言葉と手仕事

— 友の恩と物の恩 —

柳宗悦と共に民藝運動を進めた陶芸家の濱田庄司^{はまだしゅうじ}。「いいものを作ろう」という濱田の一念な願いは、通じ合う友や物との出会いにつながり、そのまま人生の道となっていきました。

濱田庄司が使用していた工房。益子町の文化財に指定されている

宇貝千代子(東京)
長い間文句も言わず、重い体を支えてくれる
大好きなイスさんにありがとう。



石毛映子(73歳・栃木)
夫の手作りです。



井上かず子(76歳・群馬)
この椅子を組み立てる時には病気のことは
わからず、歳のせいだと思っていました。



松本恵美子(佐賀)

かいて、送って、みんなでおしゃべり



読者投稿

ひろば

テーマ「椅子・イス・いす」

あなたの物語に寄り添う、暮らしの名脇役

・自由絵手紙 ・なんでも100字



菊田多恵子(東京)
バスロータリーで和んでいます。

若山恵子(71歳・埼玉)
待ち時間、隣の人について話しかけてしまう。
そんな年齢になったのだなあ。





墨、画仙紙

初心から学ぶ『ヘタでいい ヘタがいい』

誌上レッスン

絵手紙教室

月刊誌を使って好きな時に好きな場所で学んでいきましょう

こいけ・くにお

絵手紙の創始者。1941年(昭和16)愛媛県松山市生まれ。19歳より絵手紙をかき始め、「ヘタでいいヘタがいい」をモットーに絵手紙文化を広める。その活動が評価され、東京都狛江市初の名誉市民に選ばれるほか、文化庁長官表彰など受賞も多数。2023年8月31日82歳で永眠。